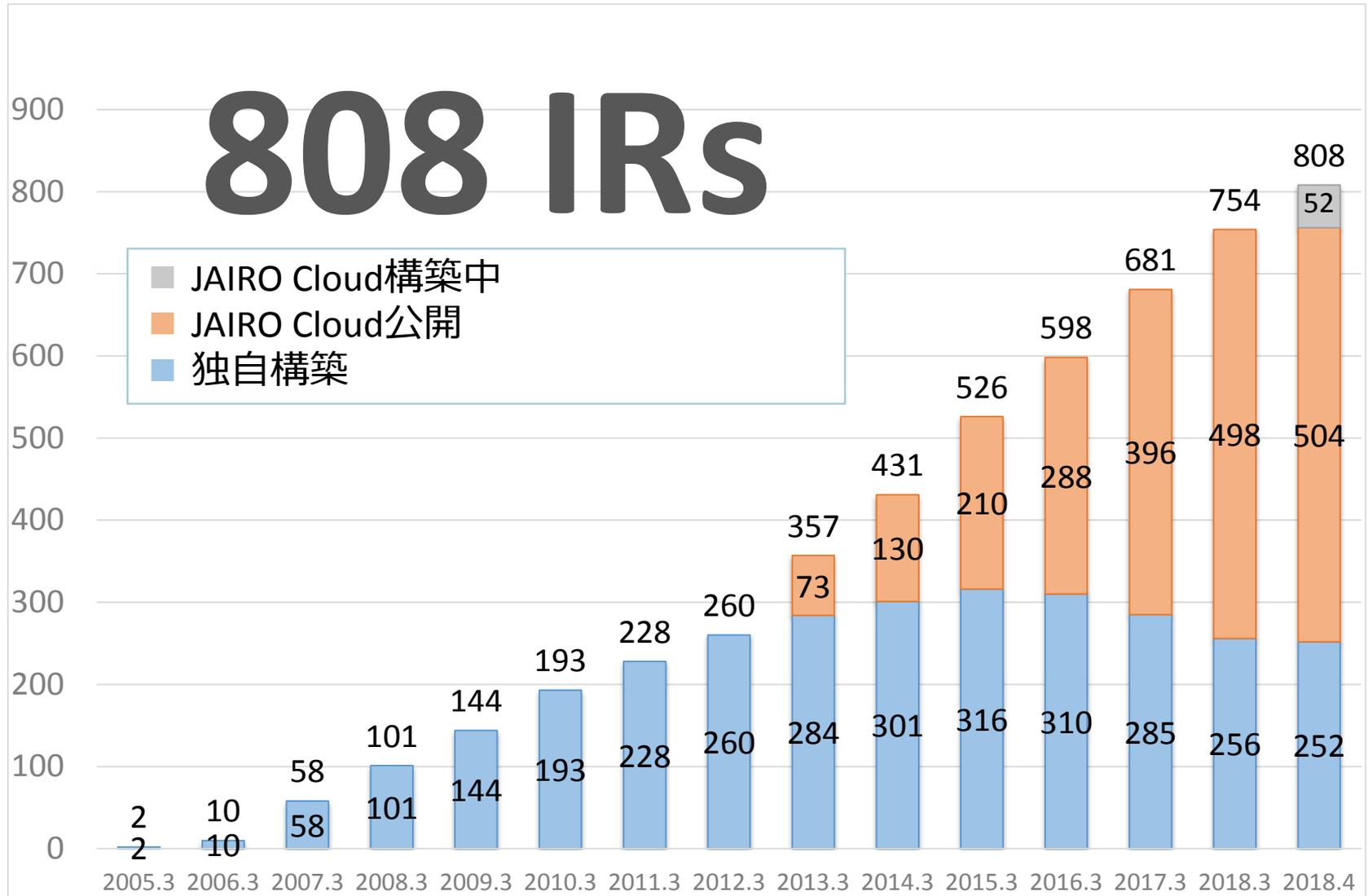


研究データ公開基盤 次期JAIRO Cloud (WEKO3)

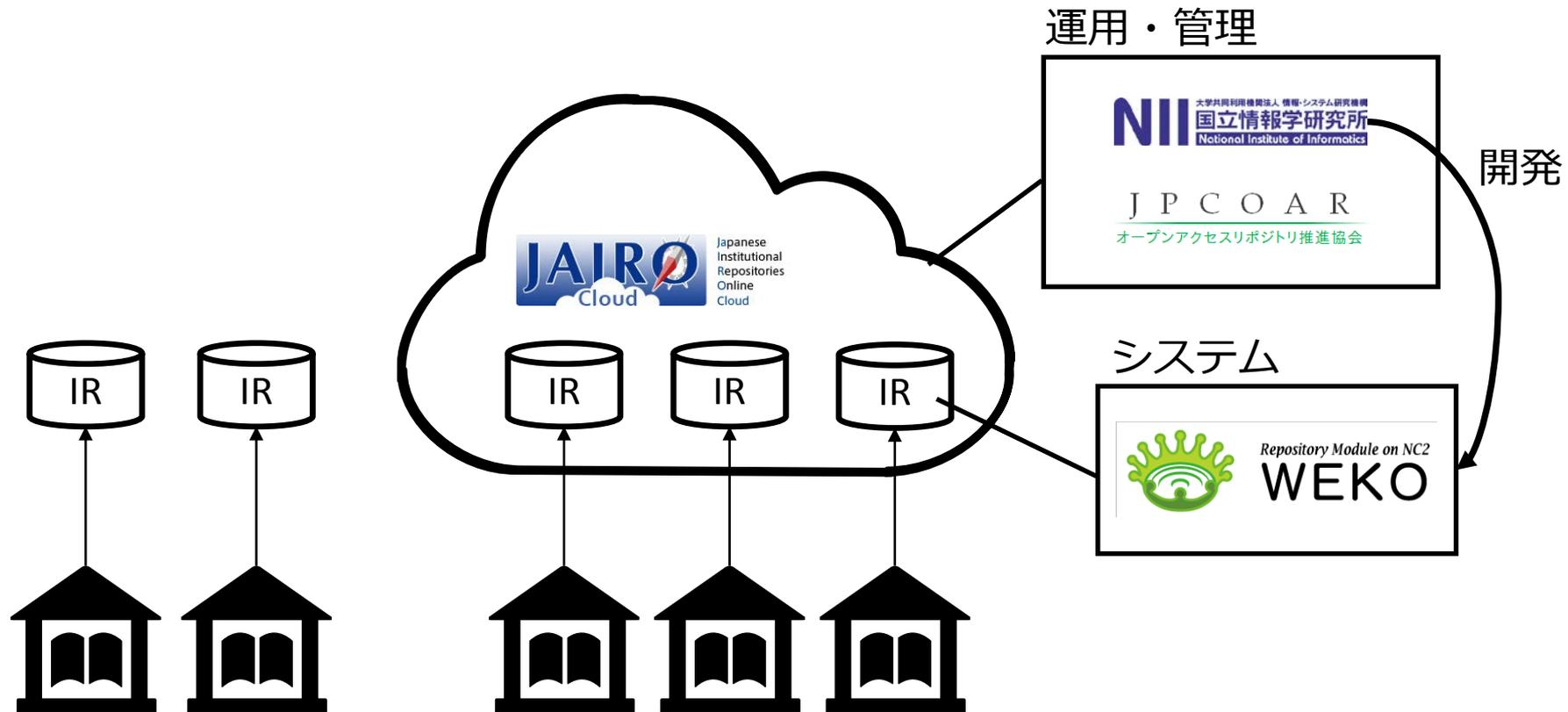
国立情報学研究所
オープンサイエンス基盤研究センター
林 正治

日本の機関リポジトリ



JAIRO Cloud

クラウド型の機関リポジトリサービス



WEKO2

• 理念 :

研究成果の共有が進む学術社会を作りたい

- NetCommons2(NC2)モジュール
 - CMSとリポジトリの融合、コミュニティサイト構築の簡便化
- DSpace, EPrints などと等価の機能
 - リポジトリに必要な機能は殆どデフォルトで実装済み
- カスタマイズ可能なメタデータ項目定義・配信機能
 - 機関の状況に応じて手軽にメタデータ項目をカスタマイズ可能
- SWORD Client for WEKOによる一括登録機能
 - Excelを使っての一括登録・変更が可能



文献の扱いを中心とした機能を提供
実ユーザ (JAIRO Cloud) の声を常に反映し高機能化

求められる役割

• 文献リポジトリとして

- 機関や研究費助成機関からの義務化に対応
 - 機関内における異なるワークフローに対応可能
 - 登録や公開のワークロードを軽減できる機能提供
- JAIRO Cloudサービスとしての成熟
 - 国内の全機関が利用してもサービスの可用性・信頼性・保守性を担保

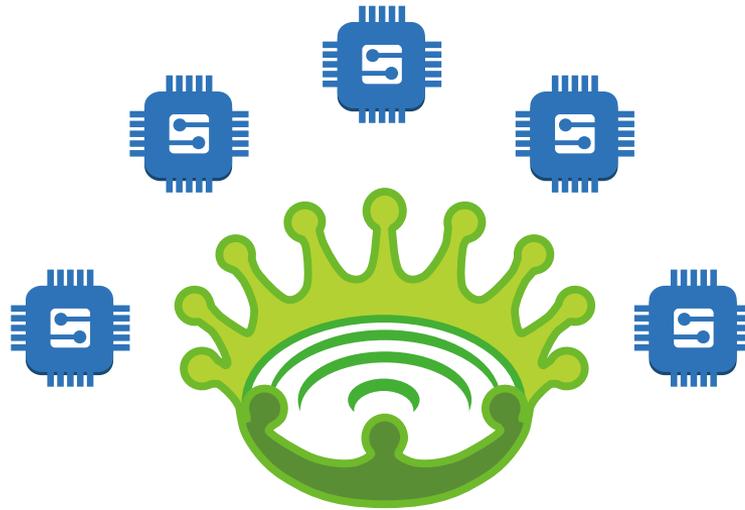
• データリポジトリとして

- 論文と関連したエビデンスデータの簡便な登録
- 多様な利用形態や機能要件に対応
- スケーラビリティを確保

WEKO3の理念

研究成果の**共有**から**活用**へ

つながる



つなげる

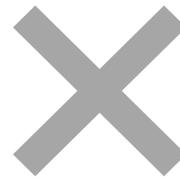
WEKO3の概要

- **理念：**

研究成果の活用が進む学術社会を作りたい

- **方針：**

- WEKO2の機能性を踏襲・強化
- JAIRO Cloudとしての可用性・信頼性・保守性の確保
- 文献・データリポジトリとしての機能要求に対応



WEKO3

データリポジトリとしての実績
洗練されたシステム・アーキテクチャ

文献リポジトリとしての実績
実ユーザーの声を反映し高機能化

WEKO3の主な特徴

- 研究データ向け簡便セルフアーカイブ機能
 - Gakunin RDMとの連動機能の提供
- 論文・研究データ公開ワークフロー機能
 - WEKO2のワークフロー機能を強化
 - カスタマイズ機能の追加
 - 登録・公開ワークロード軽減機能の提供
- 分野別メタデータ管理機能
 - WEKO2のカスタマイズ可能なメタデータ項目定義・配信機能を強化
- WEB API
 - WEKO3からの情報取得が可能となるAPIの提供

WEKO3への移行について

- WEKO2からの移行
 - JPCOARと連携しツールを開発予定(2019年度)
 - JAIRO Cloudは自動移行
 - JPCOARマッピングは可能な範囲で実施
 - 最終確認は機関に依頼予定（ご協力お願いします）
- WEKO2以外からの移行
 - JPCOARと連携しニーズに応じてツールを開発予定(2020年度以降)



NEW



With



Repository Module on NC2
WEKO

With



WEKO3

今後の予定

2017年開発：WEKO2機能、基本UIの開発

2018年開発：ワークフロー機能の強化とUIの改善、エビデンス
データ登録機能の開発、運用基盤環境の構築

• JAIRO Cloudへの展開

- 2019 試行運用
- 2020 正式運用

• 多様なドメインとの連携

- 分野別リポジトリ
 - 分野特有の機能実装
- 付加価値サービス
 - API連携・利用

• 国際連携

- COAR（特にNGR機能の実装）
- CERN & Invenio Community

